

令和6年度 第1回磐田の未来を語る会 懇談記録

日時：令和6年11月24日（日）10時半～正午
場所：ひと・ほんの庭 にこっと

参加者の質問・意見

【1】

質問・意見	市長コメント
<ul style="list-style-type: none">・子どものひきこもりについて、弱者の気持ちを自分なりに考えてきた。・医療が「薬物療法」がメインで、結局は「対処療法」になってしまっている。・斎藤環さんという精神科医が提唱している「オープンダイアログ」つまり「対話療法」を活用してほしい。・薬物療法の方が生産性があり、儲かることに對して、対話療法は時間と人手がかかるため採算性が悪く思われるが、会話を通して弱者に寄り添い、精神的な復帰を支援できる。・ひきこもりの方が社会復帰すれば経済効果もあるし、長期の薬物治療がなくなれば医療費の削減にもなる。・駅前のアーケードが空いてしまっている。老人ホームを集約し、店舗も設けて働ける老人は店舗で働く、さらに病院も集約し、点在する老人を集中させてはどうか。	<ul style="list-style-type: none">・すべてのことにおいて、話を聞く・聞いてもらうという関係性を構築していくことが大事。・対話から共有、共創へということを、医療のみならず、市民同士のつながりや市政全般としてとり組んでいきたい。・ひきこもりに関しては本人はもちろん、保護者も困っている。小さくてもいいから数多くの家族会のようなコミュニティを形成し、選択肢を増やしていきたい。・フリースクールに関しても同様。公設民営を含め増やしているが、学区をまたいだ利用なども検討しつつ「なにもしなくてもいいからここにいればいいよ」という場所を増やしていきたい。・商店街については、四国の松山で事例があるが、主体は市ではない。市が主体の場合、担当者等が変わると方針が変わってしまうことがあるので、市民や事業者が長い時間をかけて実現させている。市民などが主体的に動ける仕組みづくりに取り組んでいきたい。

【2】

質問・意見	市長コメント
<ul style="list-style-type: none"> ・子供の発達障害に関する通級指導教室について、申請してから通えるまでが1年以上かかりとても長い。また、通級制度には医師の診断が必要であることも含め、そもそも通級制度を知らない。また、数も少ないため充実していただきたい。 ・日本語ボランティアをやっていた経験から、外国籍の方と自治会との結びつきが弱く、コロナ前に比べて取組が減った様を感じる。特に災害などの緊急対応が不安。日本語教育の充実も含めて外国籍の方が自治会のコミュニティにうまく溶け込める仕組みづくりが必要と感じた。 ・帯状疱疹のワクチンの助成を半額でもいいのでお願いしたい。 ・にこっとの学習室が3月で無くなってしまう。天平のまちでは遠いので、代わりになる場所が欲しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・通級指導は、不登校と同じで制度が非常にわかりづらい。教育委員会でも検討をしているが、保護者目線でわかりやすい仕組みづくりを行っていききたい。申請してからの時間についても、医師の診断がおりのまでの時間については、人手を増やすなどの対策でかなり短縮してきているが、これからも改良をしていきたい。 ・外国籍の方への情報発信については、コロナ前と比べてやり方を変えているわけではないが何か変化していないか確認する。東部地域は外国籍の方も多く、これまでも取り組んでいるが100点とは思っていない。コロナ禍においてワクチン接種に関する情報や、少しでも他者との接触を減らしてほしいといったお願いをする際に、文化の違いもあり、情報共有をすることの難しさが露見した。いざという時に連絡できる手段を確立しておくことは重要。 ・帯状疱疹については医師会からも要望があるが、103万の壁の話もあり、今後税收減が見込まれるなか、どうすべきか検討している。 ・学習室は、文化協会の展示スペースになります。1階でも学習できるスペースは設ける。よく要望はいただくが、すぐにといいわけにはいかない。

【3】

質問・意見	市長コメント
<ul style="list-style-type: none"> ・磐田市には私立の小学校がなく、私立幼稚園に通っていたお子さんが一旦公立に通って、また私立に戻る。私立小学校があれば一貫した教育が受けられる。 ・習い事について英語・そろばんのどちらかを習うためにどちらかをやめるといった機会損失や親御さんの送迎負担を軽減できればと、英語そろばん講師の資格をとって教室をやっている。それぞれが刺激になる相乗効果とともに、これからを担うお子さんたちが国際感覚を身につけてくれたら良いと考える。 ・袋井では英検に補助を出すなど支援している。学校で受けられるとなれば子どもたちもがんばろうとなる。 ・にこっとの学習室については無くなってしまっ て残念に思う。アミューズのロビーのテーブルで学習している子もいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・豊岡でも英語×ふるさと教育など生活の中に英語を取り入れる取組をしている。英語そろばんを見かけて面白いことをやっている方がいると気になっていた。 ・私立小学校については需要が無ければ来てくれない。子どもの数が急激に減っていることを考えると厳しいと思う。 ・袋井は確かに英検の補助を出している。 ・磐田はグローバル企業に学校に関わってもらって、磐田で働くことや、グローバル企業が磐田にあるという事を認識してもらいながら、国際感覚を養うトライアルをしている。 ・先に挙げた豊岡の英語教育や英語そろばんなどを通して、世界に通用する人材が出てくれるといい。

【4】

質問・意見	市長コメント
<ul style="list-style-type: none"> ・磐田市は古来から、国府を授かるなど主要な土地柄であったことは承知のことと思う。建物などは現存しないが、文化や集落生活は今もなお人の集まる要素が潜在しているように思われる。 ・地の利を生かしたまちづくりプラス先端技術を取り入れた都市構想は磐田ならではのものになっていくと思う。磐田市内中心部にある国分寺、そして市民会館跡地の利活用を起点として、ただ建物をたてて終わりではなく、今後の構造変化を見越した未来への時流を予見した投資を行う好機と考える。 ・裾野市に展開しているトヨタのウーブン・シティをはじめとした各地でスーパーシティ構想を参考に、磐田市でも広域の特区を設けたり、誘導型の都市開発をすることで、人が集まるまちを目指してはどうか。 ・帯状疱疹のワクチン補助があるといい。 ・若い方の犯罪が増えている。防犯の対策をお願いしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・市民文化会館跡地利用について、近年では建物を建てて終わりというのにはあり得ない。「にこっと」ひとつとっても、図書館の機能に加え、学習センターが入りこれから展示スペースを設けようとしている。人×なにかの様に、掛け算で価値を創出していく。 ・公共施設を建てるつもりはなく、民間からの提案を受けて、開発を検討している。 ・公共施設の今後についても市民との対話を行う機会を定期的に設けている。 ・磐田は面白いまちづくりを仕掛ける人材が少ないと感じるので、民間で躍動してくれる人を育てていくための土壌づくりを進めている。

(全員の発言が終了したので、時間が許す限り、意見交換)